

産業建設委員会記録

令和5年1月26日(木)
午前9時58分～午後1時45分
全員協議会室

【委員】川上委員長、田畑副委員長

沖田委員、串崎委員、上野委員、布施委員、牛尾委員

【議長・委員外議員】笹田議長、肥後議員、大谷議員

【執行部】

(産業経済部) 佐々木産業経済部長、大屋商工労働課長、佐々木ふるさと寄附推進室長
岡田農林振興課普及支援担当課長、永見水産振興課長

(弥栄支所) 馬場弥栄支所長、三浦産業建設課長

【事務局】大下書記

議題

1 執行部報告事項

- (1) プレミアム付「はまだ応援チケット」の利用状況について 【商工労働課】
- (2) 「道の駅」ゆうひパーク浜田の今後について 【商工労働課】
- (3) ふるさと寄附について 【ふるさと寄附推進室】
- (4) 『有機野菜の産地づくりに関する連携協定』の締結について 【農林振興課】
- (5) 浜田漁港周辺における水産事業の調査・研究に関する協定書締結について 【水産振興課】
- (6) ふるさと体験村の再開に係る取組状況について 【弥栄支所産業建設課】
- (7) その他

2 その他

3 行政視察について (委員間で協議)

4 一日議会で発言のあった課題の対応について (委員間で協議)

5 【取組課題】浜田市の現状と将来を見据えた一次産業の在り方について (委員間で協議)

【議事の経過】

〔 9時 58分 開議 〕

川上委員長 | 出席委員は7名で定足数に達しているので、直ちに委員会を開催する。早速レジュメに沿って進める。

1. 執行部報告事項

(1) プレミアム付「はまだ応援チケット」の利用状況について

川上委員長 | 執行部から補足説明はあるか。

商工労働課長 | 1月31日までの利用と、そのチケット換金を2月17日までの予定としている。それを過ぎた段階で第1弾・第2弾合わせて状況をお知らせしたい。

川上委員長 | 委員から質疑はあるか。

串崎委員 | 第1弾の換金状況は99.5%で、見たら約180万円残っている。今後これは市民負担でこのままいくのか、あるいは後からでも換金できるか。第2弾にしても12月末時点で1億3千万円程度が換金されてない。この調子でいけばかなりの額が残るのではないかと思うが、その扱いはどうなるのか。

商工労働課長 | 第1弾については約3700枚分が未換金だった。第1弾のチケットは期限が過ぎたら使えないことにさせてもらっているので、換金できなくなったといったところでこちらのほうは精算させてもらいたい。第2弾については12月末現在で約1億3千万円が未換金だが、第1弾も未換金が結構あったので、広報でも大きな記事で案内したり、メールやケーブルテレビなどでも案内させてもらっている。第2弾も期限を過ぎたら使えない扱いにさせていただく。

串崎委員 | せっかく買われても残ることがあるのだろう。市がそのような考えなら仕方ないことかもしれないが、もう少し検討されて、何とか緩和策のご検討をお願いします。

商工労働課長 | どこまで期限を延ばすかは実質難しい。第2弾も含め国からのコロナ支援金をもらって実施している。それについても精算等を踏まえて第2弾を1月末までとしている。期限内での消費喚起を促している。期限延長は考えていない。

布施委員 | 広報は大事だと思っている。期限を区切ったプレミアム商品券は最後は買った方の責任で使うべきである。このところ人と触れ合う機会が増えてきたので、私からプレミアム商品券の期限が迫っているのでぜひ使ってほしいと広報している。やはり機会あるごとに広報。期限延長はすべきではないと私は思っている。

| 第2弾は第1弾の2倍だった。ほとんどのところが2倍の売り上げになっている。割合も増えたところがある。プレミアム商品券は共通で使えるところと地元しか使えないものがある。地元

商工労働課長

優先のためにそういうチケットをつくったのであれば、地元スーパーが何割、共通で使えるものが何割といった報告は必要なのでは。途中の割合などは分析されているか。

確かに地元応援券と共通券との数字の把握はしているが、今回はその辺までお示ししていない。最終的にまとまった段階ではそれらも含めてお知らせしようと考えている。第2弾終了後には事業者側にアンケート調査をすることも考えているので、それらを併せてまとめてご報告したい。

布施委員

よろしく願います。こういったよい施策は市民が非常に喜んでいる。第2弾で終わるのではなく、規模はどういう形になるかわからないし財源も必要だが、さらに次に勢いをつけるために、ウイズコロナであっても浜田市はプレミアム商品券を通じて消費喚起して市民を元気にすることを企画してほしい。担当課はいろいろな苦労があると思うが、第3弾、第4弾と続けられるようやっていただきたい。プレミア率についての公表はあったか。市民からの感想は途中で聞いてないか。

商工労働課長

事業者や市民から幾つかお声を聞いている中では、正直半々である。地元応援券ばかりのほうがよいという声もあるし、色関係ないほうがよいという声もある。その辺は先ほど述べたアンケートでも寄せられると思う。

牛尾委員

第2弾については非常に評判がよい。ただ一方でどうしても大型店で使えるほうが楽だと言われる。やっぱり地元商店街でも使えないと、まち全体の問題からすると理解していただける。特に地元商店街の関係者からは、非常にありがたいので引き続きやってほしいという声がある。

地元券と共通券と分けたことで非常に残念だったのは、地元で人気のお店がやってなかったことがある。自由参加ではあるが、もう少し地元とそうでないところの色分けをして、これだけ大規模のものをやるなら、地元人気店にぜひ入ってもらう。それによってプレミアム商品券の価値が上がる。各業種の人気店で使えなかったというクレームが多かった。加盟店のリサーチ方法は例えば会議所や商工会を経由するなどして、さらにブラッシュアップするよう考えていただきたい。

それから、換金率がほんの5%残っているという話が先ほどあった。1、2枚程度残っても気づかなかつたりする。例えば1世帯500円1枚残っていたら、大体2万6千世帯で1300万円。逆に言えばわずかに残ってもトータルで損しなければそれほど気にならない。自分も商店街でいろいろ企画してきたが、やはりそれくらいはどうしても残る。だからそこまで目くじら立てる必要はない。

川上委員長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

(2) 「道の駅」ゆうひパーク浜田の今後について

川上委員長
商工労働課長

執行部から補足説明はあるか。

12月定例会議において予算等の議決をいただき、資料1番にあるように不動産売買について契約等を調整している。金額的にはこれまでお示ししていた額がそのまま契約金になる見込みだが、中身の一部、中国建設弘済会が所管する道路情報案内の部分が所有となっているとのことで、そちらとも協議してこの金額でさせてもらう予定となっている。

また今後のゆうひパーク浜田株式会社の事業計画ということで、今回市が買取した金額、取得費等を含めて今後3年間程度にどういった事業計画を進めていくかがゆうひパーク浜田側から示されたところである。基本的にはこれまでに進めているアクションプランを基準に、うちから入った2億程度の金額等、調整をさせていただきつつ、今後のテナント収入を見込みながら収益の中で借入金の返済等を行っていきながら。これはあくまでも最低限という見方だが、進めていきながらゆうひパーク浜田側からも今後地域でもっと利用していただける施設になるよう進めていきたいと聞いているので、今後も連携しながら進めていきたいと考えている。

川上委員長
布施委員

委員から質疑はあるか。

契約金額については11月2日に示された消費税込みの2億3,375万円である。今回は道路使用部分で税込みで同じような金額になったという説明はよくわかった。

今後のゆうひパーク浜田の事業計画の中で一番大事なアクションプランについて、非常に残念なのは経営体制の見直し。再出発しようと思ったら自分たちの力も必要だが新しい考え方をすべきではないか。社外人材の活用は難しいと書いてあるが、どのような理由で難しいのか。

商工労働課長

もう一つ、テナント収入の獲得とあるが、見通しがあつてのことか。今から探す段階か。

まず社外人材の登用が難しいとしたのは、多くの借入金等を持っているためそこを優先してやっていく中、あえて社外から人を招き高い人件費を払うのは難しいと考えておられる。そうはいってもこれまでのこともあるので、社長交代の必要性も考えておられる。社内人材の登用も含めて協議中だと伺っている。

布施委員

テナント収入については、これから探すというよりもこのアクションプランを立てたときから探しておられるという意味で、継続といえる。今幾つか具体的な話をしていると伺っている。

社外人材の登用が難しいのは給料が高いというネックのためだと回答があった。そういうところを行政が全国からつながりを探してあげる。ゆうひパーク浜田だけでなく。行政は全国の

情報を持っているのだから。異業種の方が社長になってオリジナル商品を開発したことで活性化した道の駅も結構ある。道の駅の勝ち組・負け組という話があるが、その差はオリジナル商品の有無と、地元民の利用の有無。ゆうひパーク浜田にはこの二つがない。商売は競争なのでゆうひパーク浜田も道の駅として再生しようと思えば、他事業所とどんどん協力していくべき。しかし今の人ではそれができない。行政がそういう人材を探してあげることも大事だと思う。

もう一つ、テナントについて。飲食は出店しやすいが撤退もしやすい。しかし道の駅としてテナントをどう考えているか、どのように持っていくかは、経営者の考え方が非常に大事だと思う。その辺をしっかりと経営陣と話し合ってもらいたい。立地条件はよいのだから活性化していかないと、トイレや自販機の利用くらいで終わってしまう。本当にしっかり考えていただきたい。

商工労働課長

成功している道の駅は地域の方に活用される施設であることが多い。経営者の考え方が非常に特徴的だったり、地元に対する考えを持って方針を練っているところが多いと実感している。そういう点がゆうひパーク浜田は弱いので、今後そこをしっかりと進めていくよう、浜田市も所有者として協力できる場所はすると話している。

うちの話では3年後にプロポーザルで新しい道の駅の運営者を募集しようと考えているので、その辺も踏まえてテナントも検討していきたい。

田畑副委員長

経営陣の経営能力の問題なのか、時代背景の問題なのかも含めて。経営能力がなかったから結果的にこのような数字になったと思われる。そうした組織が新たな人材を求めずに社内で調整しては、まったく同じことの繰り返しになる気がする。市の財産として経営していく気があるなら経営母体を立て直すのが先では。何か考えはあるのか。

商工労働課長

おっしゃるようになってこれほどまでこのような経過で来ていて、そのまま続けられても意味はない。変わらなければよい施設として展開していかないと話もしている。どう進めていくか、人材はまた話をする。内容については、まずは地元民に使ってもらって人を増やすところを目指しながら。どういった業者が参加されるかわからないが、今のままで手を挙げて難くなるのではと思う。この3年間でしっかり変われるよう進めていかないと難しいと思う。

田畑副委員長

3年後のプロポーザルでどなたがされるかわからないのはよいが、浜田市が2億3千万も投資して指定管理をお願いするのに、今まで結果的にこのような数字が出てきたということはやはり駄目なのだ。3年間またこのままやっていると傷が大きくなる。

商工労働課長

そのときにまた浜田市が新たなお金を投じるのは大変な問題だと思う。この組織ならそういった予測ができると思うがどうか。経営関係についてはうちで新たな資金をゆうひパーク浜田に投じることは考えてないので、少なくとも3年間は運営をお任せする方針でいるので、それはしっかりやっていただくよう話している。そこで何か非常に難しい状況になるようなら、休館もまぬがれない。そうならないように、うちも新たな投資をすることは考えてないので、しっかりやっていただきたい。

牛尾委員

もともと山陰道内の道の駅は将来的に有望であるという前提の中、休館はできないだろうから買い取るのだという話を聞いてきたと思うが、先ほど課長は休館の話も出した。買い取る話が出た当初とは大分変わってきているニュアンスを感じる。これは大きな問題だろう。アクションプランを見ても見えにくい。このような先の見えない状況で3月定例会議に予算を上程して大丈夫なのか。課長は他人事のような言い方をされるが。市の財産として税金で買うのだから、もう少し先が見えるような文字が並んでいけばよいのだが。10年以上赤字が続いているのだから社外人材の登用は無理である。株主の企業から出てやるといったことも言わないといけないのでは。買い上げはするから3年後のプロポーザルまで何とか営業してもらうようにと、外形的には見える。それは少し違うのでは。

それと同じような業種が来て続くと思うか。続くわけない。この状態で出店したらまたお金がかかる。このお金を例えばゆうひパーク浜田が全部取って、真っさらな箱にするならまだよいができないだろう。テナント収入を獲得する前にやらなければならないことがいっぱいあるのに、わかってこのようなことを書いているのか。定期イベントの開催については知恵の一端を感じた。ここを市民に利用してもらうために、市民の意見を聞く。そのために例えば50人委員会や100人委員会などを立ち上げたいと言われていたのに、その話はどこへ行ったのか。

税金で買えば自分の懐は痛まないから、この程度のいいかげんなペーパーなのだろうと言わざるを得ない。このような状況では大変なことになると思う。今漏れ聞いているのは、3年後はどうせプロポーザルにかかって太刀打ちできないから、3年間の努力は非常につらいといった声が出ているとうわさ

で聞いた。市はのん
商工労働課長

きに構えているのではと心配する。

そういうつもりはなかったが、そうならないよう進めていくということで買い取らせてもらった。ゆうひパークとは事あるごと意見交換をしている。資料からは今後のことなどが見えにくい点は大変申しわけなかった。またさらにこの内容を詰めてしっかり示せる内容にしたい。今後意見等を聞くという話については3年後のプロポーザルに向けて、今後の施設運用を検討し

牛尾委員

ていく中で意見を聞いていきたい。令和5年度に入ってそういう動きをしながら今後の方針をまとめていきたい。

休館しないためには市が買い取って浜田市の顔としてやっていかないといけないという大きなテーマがあるので私も賛成したのだが、今の時点で休館が約束されるような内部事情があるなら買取りすべきではない。専門チームをつくってもう少し腰を入れてやってもらわないと。議会の議決事項だから最終的に僕らに責任が来る。今のままだと怖い。

田畑副委員長
川上委員長

進行を交代する。

組織についてはこれから検討されると思うが、損益計画を見ると前期実績となっている。本当にこんなのか。できれば過去3年間くらいの財務三表、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書を見てみたい。同時に償却資産についても確認したい。できれば元となる16表を見せていただくなど、お示しいただきたい。そこまでやらないと本当にこの経営ができていたかどうかはわからない。今後の経営も見えてこない。多分次回の産業建設委員会で調査依頼を出すかもしれない。それまでに見られるようなら見せてほしい。最後に令和7年度末に1億9,800万円、約2億円の借入残額となっているが、この処分はどうされる予定か。

商工労働課長

令和7年度までの借入金、どのように返済していくかということで、毎年返還していく。残り1億9,800万円については今後も毎年の利益等に応じて返済していく計画である。

川上委員長

令和7年度以降も返済するということは、新しい会社が払ってくれるのか、それとも市が払うのか。

商工労働課長

市が令和8年度以降、プロポーザルによってどの会社が決まるかわからないが、ゆうひパーク浜田株式会社としては引き続き何らかの形で返済するものと思う。

川上委員長

これを見る限り令和7年度の1億9,800万円という借入金を、8年、9年、10年と払っていくとなると、何年かかるのか。最終的には市が補填になるのかと思うがその点はいかがか。

商工労働課長
川上委員長

借入金を市が補填する考えはある。

先ほど牛尾委員も言われたように、このままの形態で本当にできるのか不安である。私どもは確かに議会として議決しなければならない部分があるので、それができるかどうかになってくる。1億9,800万円が残っているならそれが負債額として今後も出てくるとすれば、浜田市が1億9,800万円を出さざるを得ないことが起きてくると言えなくもない。もともと2億3,300万円なので、それに約2億円ついてくれば5億に近い額になってくる。したがって財務三表をもう一度、3年間か4年間で結構なので見せていただき、本当に今の形の会社でできるかどうか。経営体制の見直しを上げながらも外部人材の登用は難しいと言われて

商工労働課長
川上委員長

産業経済部長

川上委員長

田畑副委員長
川上委員長

いるので内部でされるのだろうかから、拝見したい。これは所管事務調査のほうがよいか。

資料等はまた用意してお見せできると思う。

私だけでなく全委員が確認できるようにしていただきたい。それから、1億9,800万円をずっと残しておいて本当に大丈夫か。

令和7年度の約2億だが、これはあくまでもゆうひパーク浜田の借入金なので、例えばプロポーザルをやって令和8年度以降にほかの企業が道の駅の事業を行うことになれば、この段階で株式会社ゆうひパーク浜田は撤退である。その残額については株式会社ゆうひパーク浜田の責任において返済していただくので、これについては市が返済することはない。

納得した。2億円近い残があっても出資金だけで終わる可能性があるかと理解した。先ほどの件はよろしく願います。

進行を交代する。

ほかに。

(「なし」という声あり)

(3) ふるさと寄附について

川上委員長
ふるさと寄附推進室長

執行部から補足説明はあるか。

少し補足する。上段の実績表を見てほしい。4月から7月までは対前年を下回った。これは前年度に高額寄附やポータルサイトの有料広告のなどがあり、寄附の増額となる要因があった。加えて返礼品についても、人気のあった品の見直しや原料高騰などの原因で寄付額の減少となった。

8月から11月まではおおむね増加となっており、ノドグロ解禁と併せ昨年度から参加したさとふるからの受付増加、そして11月から新たに参加したぐるなびからの受付と、年末に向けて申し込みが増加する傾向に乗り、ノドグロ関連、水産物、鍋食材などが増加した。

10億円への到達は前年と同日の12月30日だった。11月下旬からノドグロ関連が在庫切れになる日数が増え、結果として寄附件数は対前年比101%、500件弱伸びたが、累計額では対前年比97.1%減額した。

裏面には負担金について、これまで申し込み商品によるランキングを掲載をしていたが、今回から寄附額が見える形にし、これでランキングを行っている。

川上委員長
布施委員

委員から質疑はあるか。

善戦されていると感じる。いろいろな情報サイトを見てみると、ふるさと寄附を通じたまちおこし、足りない部分に基金を充てるなど、結構力を入れている。上位はあまり変わらないが、浜田市としても10億円を維持して死守することは大事だと思っている。いろいろ商品が出ているが、トップはノドグロ関係。

- 漁業水揚げ高などが後で報告されるが、ノドグロも前みたいにとれなくなって値段が高騰している。その中でも人気があるということはやはりピカーなのではと思っている。
- 浜田はアナゴがとれる。この商品が全然見当たらない。反対に特産寄附金額ランキングで7番9番に松葉ガニセットがあるが、浜田でとれるのかと思う商品が上がっている。アナゴはとれるが入っていない。どうなっているのか。
- ふるさと寄附推進室長 ランキング7番9番の松葉ガニは、畜養しておられる事業者がおられ、重さも計り、価値を高めることを区域内でやっているというところで県、国にもきちんと報告し、返礼品として認めてもらっている。
- アナゴは昨年大変人気であり、たくさん申し込みもあったのだが、規格の問題等があり中身を変更されている。去年出ていたものが出てない状況である。浜田のアナゴは大変おいしいので、こちらのPRもしていきたい。事業者と一緒に取り組みたい。
- 布施委員 いろいろ事情はあるのだろう。松葉ガニセットについてはわかった。アナゴについては山陰でも大田や江津ではアナゴ料理が非常に注目されている。浜田で水揚げするなら使っている飲食店も結構あると思う。アンコウと同じようにアナゴも売り出していくべき。どんちっち三魚の次に続くものを、好調のうちに育てないと。10億円を維持するには次の商品を考えて推すべきだと思う。ふるさと寄附推進室はそのあたりの戦略をどのように考えているか。
- ふるさと寄附推進室長 取扱事業者の話は伺っている。実は新商品はできているのだがまだ提案書ができないうことである。特産品を来年度に向けて継続するかどうかの手続き期間に入っている。また来年は少し取組が変わるポータルサイトもあるので、それらの説明会も12月、1月の2回行ったところである。それも含めて、ポータルサイトの強みを生かして、ノドグロに続く当市の水産物、アンコウ、アナゴなどを強くPRしていこうと考えている。
- 布施委員 ぜひよろしく願います。所によっては地元ならではの調理法レシピを添えて送ってくるところもあり、それが非常に喜ばれるようである。ふるさと寄附については業者がたくさんあるので全てはできないかもしれないが、せめて上位商品の人気を維持するためにも、他市のよい取組を参考にすべきでは。その辺はどのようにしているか。
- ふるさと寄附推進室長 ご指摘のとおりである。届いた品のレビューを投稿してくれたりする。やはり人気の品にはそれぞれレシピがついている。事業者にも尽力してもらっていて、毎年同梱物についての指導をポータルサイトからいただいたりしており、皆大変勉強してもらっている。写真の撮り方も随分よくなり、売れ行きも大変

牛尾委員

高い。このようなことを地道に積み重ねること、そしてそれにプラスしてステップアップしていかないといけない取組もある。一緒にやっていきたい。

ふるさと寄附推進室長

牛尾委員

ふるさと寄附推進室長

一般質問で取り上げた後に市長から、新年度はふるさと納税をもっと増やすために一定の予算をつぎ込むといったニュアンスの話聞いた。そういう方向なのだろうか。

来年度の予算のことなのだが。

方向性だけで結構である。

導入しなくてはいけない部分をはっきりしているので、そこを持ち込んでいる。来年度に仕組みの変化が伴うところもあるので、そういったところを事業者などと一緒に、寄附を増やすためのふるさと納税に重点を置いていきたい。

牛尾委員

12月定例会議で言わせていただいたモノからコト。県の美肌観光に合わせて金城の温泉やアソコウといったものにアプローチしていかないと。星野リゾートほどとは言えないがそこそこよいラインまで競争できるような素材があるのだから、業者がそういうことで勝負できるということをこちらからつくっていくような働きかけが必要なのでは。例えば水産品研究センターと一緒にいろいろな商品開発をして、できたものをそれに乗せるというのがある。浜田の業者全部がとは言わないが、人気があるものを出せば売れるという程度で、そこから先への努力をしていない部分があるのでは。参加業者を増やすアプローチを推進室でされるのか、もしくは別の部署がどこかの機会に徹底して売り込むか。中途半端が一番駄目である。何かのイベントに業者を必ず連れていくほうが効果があるとわかっている。新年度は踏み込んでやっていかないと。全国50万アイテムの中から数種類選ぶわけだから、よほどの努力をしなければ勝ち残れない。自治体同士で税金を奪い合うのもどうかとは思いますが、制度としてある以上は、稼いだお金で市民サービスのお金をつくり出すのが僕らの使命だと思う。もう少しさらに努力をして結果が出るように。努力しなくても結果が出ることはあるが、やはり努力に努力を重ねて、せめて20億円や30億円を目指したいくらいを施政方針で言ってもらわないと。数値目標がないような政策はない。ご検討をお願いします。

川上委員長

田畑副委員長

川上委員長

ほかになければ私から。

進行を交代する。

2点ある。1点目はふるさと寄附について現在の指定管理者の財政状況等について。19年から21年の3年間分を確認したところ、経営の高利化等によってかなり財政的に、運営的に、よい方向へ向かっていると感じる。しかしながら買掛金の減少に比べて利益が大きく落ちてない。要するに買掛金が減っているということは、安く買っている。状況がよくなっているのに、買掛金

- が減った割に利益率が減ってないということは、買い手先に負担を強いている可能性があるのではないかと見た。その点についてはいかがか。
- ふるさと寄附推進室長 仕様書にのっとって事業と履行の確認をきちんとしていただくのが重要と考えている。先ほど申し上げた数値は私から状況を伺ってのところだが、ぜひ中間利用者におかれてはノウハウがないところをぜひよいところを出してもらい、事業者と一緒にになってふるさと寄附が守られるよう頑張っていたきたい。
- 川上委員長 今年度末が満了なので、活動された3年間どうだったかももちろん精査して次へつなげていきたい。
- 川上委員長 新しくプロポーザルで指定管理者を決める。2月10日がプレゼンだが、できれば指定管理者のみならず買入れ先も安定した経営ができるよう考えてほしい。そういうことをぜひうたっていたきたい。
- ふるさと寄附推進室長 いただいたご意見はぜひ検討に入れる。ふるさと応援基金が増えるよう、返礼品を送付する地元事業者にも利益が増えるような、そして市のファンが全国に増えるよう推進していきたい。
- 川上委員長 その点をしっかり重視し、一人勝ちにならないようお願いする。経営に関して行政、議員が口をはさむべきではないのだろうが、市の金を使いながらやっていることなので、ぜひ指導していただきたい。議員ごときがという発言が出ないようお願いする。
- 田畑副委員長 進行を交代する。
- 川上委員長 ここで暫時休憩する。

[11時 05分 休憩]

[11時 14分 再開]

(4) 『有機野菜の産地づくりに関する連携協定』の締結について

- 川上委員長 執行部から補足説明はあるか。
- (「なし」という声あり)
- 委員から質疑はあるか。
- 田畑副委員長 進行を交代する。
- 川上委員長 楽天との連結協定がなされた。金城においてもたくさん土地が余っている。特に元谷地区の農地は開発したところがたくさんあった。約5ヘクタールあるが、これはどのような形になっているか。
- 普及支援担当課長 金城地区中心に10ヘクタールの農地を楽天へ提供している。元谷団地についても候補の一つとして検討してもらっていると思うが、それが適地になるかどうか確認いただき、最終的に有機ブロッコリーをつくっていただくので、それができるかを確認して参入してほしいと思うし、市としては今入ってもらって

川上委員長	<p>いる農地は水稻跡地が多いので、ブロッコリーをつくるとなればやはり排水のよい土地になるのだが、浜田市はそれほど多くない。となれば元谷団地は期待する土地の一つなので検討を重ねていきたい。</p>
普及支援担当課長	<p>元谷は現在トマトをつくられている。トマトもなかなか経営が難しいのではと見ている。そういうことも含めて元谷団地は現トマトの確認と、残り5ヘクタールの土地の露出と、何に適するか。もしこれから有機に使うならどういう形にすればよいかもぜひ検討いただきたいがいかがか。</p>
田畑副委員長 上野委員	<p>どのような適地かは確実に調べて紹介させていただきたい。TCトマトは浜田の拠点用地である。浜田市内の拠点となるよう一定程度参入いただき、今後農業振興を図れるように進めていきたい。</p>
普及支援担当課長	<p>旭も耕作放棄地が大変多くなっている。楽天は旭のほうも見に来られたと聞いた。旭の候補地については何か聞いてないか。</p>
上野委員	<p>浜田市内の多くの土地を確認いただいている。旭地域については山之内梨園を確認してもらった。昨年見てもらったのだが、今はまた管理状況が違う。各地域大体見てもらったので、各支所を通じて検討している。島根県石見地区の9市町に入ってきている。最初に島根県で100ヘクタールを目指そうとして進めているので、浜田も適地になるようなところをしっかりと探す。1ヘクタールほどのまとまった土地が必要になるので、まとまった土地という観点では団地や梨園はよい土地である。今後しっかりと見ていきたい。</p>
川上委員長	<p>梨園もつくられる方が減ってきている。ぜひ活用いただく方向でお願いします。</p>
	<p>ほかに。 (「なし」という声あり)</p>

(5) 浜田漁港周辺における水産事業の調査・研究に関する協定書締結について

川上委員長 水産振興課長	<p>執行部から補足説明はあるか。</p> <p>マルハニチロと改めて協定を締結した。引き続き共同で調査研究を行う運びになった。これまでの経緯も踏まえて少し説明させていただく。</p>
川上委員長 牛尾委員	<p>(以下、資料をもとに説明)</p> <p>委員から質疑はあるか。</p> <p>大手商社と組んでこの間にも着々と、大都市周辺では数十億単位の養殖事業を立ち上げている。しよせん養殖事業も立地産業なのかなと。東京や大阪など大都市周辺から離れたこの田舎だと養殖事業そのものも立ち行かないのかと、少し拗ねた見方をしている。</p>

- 一方で、昨日総理が言ったように養殖事業に今後力を入れていくと。今は結構養殖ベンチャーが立ち上がっている。小額投資で小規模養殖ができる方法が脚光を浴びている。小さいベンチャーが手を挙げて、やってみたいとなるような仕掛けを瀬戸ヶ島中心に描いてもよいのではと思う。令和7年まで協定を締結したとのことだが、7年までやっても何もならないかもしれない。大手企業に間口を開くと同時に小さいベンチャーにも開いて、小さいロットで勝負できるような養殖事業者を掘り起こす、スタートアップできるような仕掛けを水産振興課でも考えたほうがよいのでは。
- 水産振興課長 今回マルハニチロと縁ができて、平成31年以降関係を築いてこれまで連絡を取りながら進めてきた。瀬戸ヶ島での陸上養殖は解除の申し出もあったのだが、今回浜田エリアにおいてまずは養殖事業の可能性が本当にあるのかないのか、マルハニチロの技術とノウハウを借りながら調査して、それから次のアクションを考えていくといった構想を描いている。まずは浜田市の実態を知るべく、マルハニチロと研究調査をしたい。
- 布施委員 最初に締結した際、コロナ禍に入る前にある程度調査研究はしたのではないのか。ある程度知った上で、いざやろうとしたところで自社事業再建で断念されたと伺っている。漁獲量が上がらないなら養殖に頼るしかない。先のことを考えるべき。これから調査研究をすると言うが、今まで何をしていたのか。
- 水産振興課長 令和元年10月に試掘調査の結果を渡し、令和2年にすぐコロナ禍でマルハニチロの業績も悪化し、まずは事業再建を優先したいと言われたのが第一である。人材確保も不足している。陸上養殖も地下海水の調査結果を渡したところ水温が高いという指摘があった。一番の原因はコロナ禍で状況が変わったことだが、陸上養殖も高い水温に適した魚種は何かということもマルハニチロと一緒に研究したいと思っているし、海面も含め養殖全般が浜田に適しているかどうかもしっかり調査研究していきたい。
- 布施委員 このたび当委員会は陸上養殖のとある会社へ視察に行く予定だが、この会社は二次循環型養殖システムを利用して丘育ちサーモンというブランド品をつくっている。これは水を変えなくてよい。水温も関係ない。そういう企業も当たって、同時に考えることもやらないと。マルハニチロの調査は2年がかりで、それから立ち上げとなると10年そこらかかる。別手段も調査研究すべきだと思うのだが、マルハニチロとやることばかりを考えている。ビニールハウスで養殖している会社もある。水産業振興のため、ほかの会社のことも併せて考えていくべきである。
- 水産振興課長 確かに定年でとれる水揚げ量も減ってきている。養殖事業はやはり今後考えていきたい課題だと思う。今回、マルハニチロと関係を築いてきて、信頼関係も生まれてきたと思っているの

川上委員長

で、まずはマルハニチロ中心で養殖事業を何とかできないか調査したい。
ほかに。

(「なし」という声あり)

(6) ふるさと体験村の再開に係る取組状況について川上委員長
弥栄産業建設課長

執行部から補足説明はあるか。
資料を見てほしい。まず施設改修工事については2月下旬完了予定で進めている。地元の建造状況については12月末時点での報告は前回しているの、それ以降の検討状況について資料に記載している。地元からの事業計画の概要は資料の次ページ以降で示している。関係人口増進は最終的には移住につなげていきたいという思いを持ちながら、各事業の統一感を持たせて進めていきたい。

資料4枚目以降は全事業のあくまで基本のプラス。当然繁忙期は稼働日が増えていく。5ページ以降は各事業について記載されている。特に宿泊事業はターゲットを各施設ごとに定め、料金設定は浜田市民にしっかり使ってほしいため、部屋代は50%割引し、事業にもかかわっていただく。それぞれ事業を書いているのでまた確認してほしい。

最終的にはゴールデンウィークからの本格稼働に向けて準備を進めている。

川上委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(7) その他

川上委員長

水産振興課から漁業別水揚げについて資料が提出されている。大きな変更点はないため資料は配布のみとしている。しかしながら、今朝の新聞で浜田漁港の水揚げ高、金額等々について、大きく報道されている。この点についてご説明いただきたいかがか。

水産振興課長

漁業別水揚げということで12月までの状況がわかった。これに併せて令和4年度の全体水揚げが判明した。配布資料2ページ目を見てほしい。水揚げ比較表がある。1月から12月まで。右側の表の一番下、結果的には水揚げ量は例年に比べ1922トン減である。水揚げ金額は約35億円で、昨年と比較して2億4300万円減という結果だった。この原因は、中型まき網の地元外、これは隠岐船団だが、これが昨年に比べて入港回数が減った。主にはどんちっちアジが獲れないためである。ただ、地元船は沖合底びき網船が例年どおりの水揚げであった。中型まき網の地元船も昨年並みの水揚げだったので頑張ってもらったのだが、やはり県外船の入港減が水揚げに大きく影響した。

牛尾委員
水産振興課長

座礁した船は今季は使い物にならないのか。

伺うと12月末に座礁され、年が変わってようやく座礁現場から船を引き上げ、今は修理修繕を検討中だが、次の漁期が始まる8月からの再開を社内で検討されている。

牛尾委員

今年の夏から新船1か統と、今修理中の船1か統の2か統でやられるという認識でよいか。

水産振興課長
川上委員長

そのように認識している。

ほかに。

(「なし」という声あり)

ほかに執行部から何かあるか。

商工労働課長

資料はないが、市内タクシー事業者である有限会社浜田ハイヤーが営業をやめられたことについて報告する。

浜田ハイヤーにおかれては1月24日の正午に営業をやめられている。市としても同日夕方に連絡をいただいたので、現在状況調査等をしている。今後情報を得る中で、必要に応じて関係部署と対応していきたい。

また昨日の総務文教委員会で地域政策部から同様の内容で報告させていただいたが、このことは全員協議会でも報告したほうがよいと伺っている。2月7日全員協議会までに知り得た情報やこちらで必要な対応などをまとめて報告する予定である。

川上委員長

ほかに執行部から報告はないか。

(「なし」という声あり)

ではここで、2月7日開催の全員協議会へ提出して説明すべきものを決定したい。まず執行部の意向を伺いたい。

商工労働課長
川上委員長

(2)、(5)、(6)の3点を報告したい。

執行部の意向のとおりでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではこの3点でよろしく願います。

2. その他

川上委員長

その他執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では執行部はここで退席されて結構である。ここで暫時休憩する。

《 執行部退席 》

[11時 46分 休憩]

[12時 59分 再開]

3. 行政視察について（委員間で協議）

川上委員長

1月31日から2月2日に行く。視察先は千葉県柏市、鎌ヶ谷市、木更津市である。

（以下、資料をもとに説明）

本日の委員会で出た話題に関連する事業を確認に行くことになると思う。行程については書記から説明をお願いする。

大下書記

（以下、資料をもとに説明）

川上委員長

視察終了後には委員派遣報告書を作成し、14日以内に議長に提出する必要がある。またこの内容を踏まえ行政視察レポートを作成し、全員協議会で議員と執行部に報告することになる。これら報告書の作成について書記から説明をお願いする。

大下書記

（以下、資料をもとに説明）

川上委員長

なるべく温かいうちに打ってしまいたい。協力をお願いする。視察報告書の作成についてだが、先般話したように全体の取りまとめとレポートは私と副委員長とでやりたいと思うが、各地については柏市が沖田委員、鎌ヶ谷市は上野委員、木更津市の陸上養殖は布施委員、道の駅については串崎委員をお願いする。これら報告をまとめ、3月定例会議最終日の全員協議会で執行部を含め皆に報告する。この報告については私からする。なお牛尾委員は都合が悪くなり今回の視察には参加できなくなった。また帰れば牛尾委員にしっかり説明いただきたい。よろしいか。

（「はい」という声あり）

4. 一日議会で発言のあった課題の対応について（委員間で協議）

川上委員長

昨年 of 市民一日議会で課題として扱うことになった2件については、所管事務調査として扱うこととし前回の委員会で執行部から資料を提出してもらっている。その資料を参考にイベントの情報発信についてと漁港付近の利便について、委員会としての方針を決定し、12月中旬に発信者へフィードバックしている。この点についてはよろしいか。

（「はい」という声あり）

今回はさらに、一昨年 of 市民一日議会の課題の取り扱い状況について、発言者への返答内容を再度確認してほしいと議会広報広聴委員会委員長より依頼があった。一昨年 of 議題と協議結果については資料に記載している。このことについて委員から意見はあるか。4件について。

城山登山口周りの整備については、担当課が計画的に市長に働きかけると回答しているが、これを委員会でどのように扱うかである。どこかで委員会として正式に申し上げるか、または誰かが一般質問で扱うか。

布施委員

これに限らず一昨年 of 市民一日議会で、市民の意見として聞いたが、あくまでそれは提案であり、執行部がやるように議会

から働きかけているが、やる方向であるなら事業の見える化。市民一日議会は陳情の場ではなく意見を聞く場で、実質できるかどうか分からない部分はあるが、働きかけると回答した以上は市民一日議会で意見を言われた方に取り組んでいる姿勢が少しでも見えるように。特に城山登山口周りの整備については、1年以上たって全く整備されてない。どこをどのように委員会で言われたのかと言われた。発言者の思いを酌み取るなら、少しでも見える化するように、城山登山口周りの整備予定くらいは示してほしいと、我々から担当課に言うべき。

4名の方には、働きかけるとこちらから伝えた後、何か回答があったのか。

大下書記

ここに回答があったわけではないと思うが、一部の方から、全然動きがない、フィードバックがないがどういうことかという投げかけがあったと聞いている。

布施委員
牛尾委員

そこの見える化。

皆それぞれ近い方が発表されたケースにおいて苦労されているように思う。その上で言うなら、市民一日議会で意見を言ったからといって、それがすぐさま実現につながるような錯覚を持たれては困る。多様な意見を吸い上げる点では市民一日議会はよいと思うが、それが明日明後日にでも実現につながるようなものではないということは、やはりきちんとおかないと。あそこで言ったのに全然やってくれないというようなレベルではない。逆に言えば、応募される方にはそのことをしっかり確認してほしい。

市民一日議会の場でしゃべるのは、将来の議員候補というか、一つの踏み台にもなる。そういう目標もあるので、陳情の場ではないということをはっきり言わないと。関係の深い議員がかえって迷惑を受ける。例えば委員会でそのようにまとめれば、きちんとしてほしい、その上でやるということをお願いしてほしい。

布施委員

今牛尾委員が言われることはごもっともである。第1回目の反省点としてはそこだった。ただやった以上はある程度、陳情の場ではないのは確かだが議会としてどうするかといったときに、産業建設委員会でこう考えるべきだ、このようにやろうと相手に回答したのだから、その取組が見えてないと。これは対処しなければいけない。来年度もやるとすれば、今牛尾委員が言われたように陳情の場ではなく意見を聞く場だということを、議会広報広聴委員長から市民一日議会のあり方を、私たちが含め参加者に対しても意思統一すべきだと思っている。

今議題に上がっている4人については、働きかけると回答しているのだから。

川上委員長

今の2人の話を聞くと、せっかくこうして働きかけると回答し

牛尾委員

ているのだから、働きかけた証拠を残し、なおかつ回答を求める。すぐできないので検討するという回答でもよいと思う。牛尾委員が言われるように陳情ではないので、やると確定するものではない。

10年くらい前に城山の景観が悪いと言われて、市がやらなかったのでボランティアを集めて2回くらいやったことがある。逆にいえば市がすぐできない問題なら産業建設委員会と市民ボランティアで掃除でもするかと提案したらどうか。市ができるわけではない、市が何でもやらなければいけないというのは少し違うので、積極的に清掃ボランティアをしようといった提案もよいのでは。

川上委員長

確かにお互い協力して、市としてはなかなか動きづらいが委員会として協力していく方向もあると思う。これについては少し時間をいただいて、方策を考えたいがよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではこの件はお預かりする。次の資料を見てほしい。これも陳情ではないので、できることを委員会で継続できるようにあればそうさせてもらう。同時に担当課については委員会としてこのようなものを上げたが、これについてはどう対応されるかと聞いてもよいと思う。それでよいか。

(「異議なし」という声あり)

では1番から3番は全てその形にさせてもらう。

5. 【取組課題】 浜田市の現状と将来を見据えた一次産業の在り方について

川上委員長

これまで漁業・農業・林業の関係者との意見交換も行い、課題の掘り起こしをしてきた。本日はこれまで聞き取りしてきた課題について、どれを取り上げ提言につなげるかを協議したい。

まず農業関係者の課題については、大きく五つ上げている。最後に市としてできることという形で幾つか上げている。この中でも三つについては現在、楽天農業でも少し考えている部分だと思う。こういうのも含めてできることを上げていくのだが、6項目全てを提言とするのは難しいので、大きく2点くらいにしたい。どれをメインに提言をつくり上げていくか。中山間地関連で提言している内容と被っているところもある。研修制度はまだ上がってない。研修も農業そのものか、または農業理解なのか、またははやりのドローンか。その下のIターン・Uターンについては、浜田市の独自政策は今一つしかない。全て国県のものである。浜田市の政策は、地域を見にきてくれる方への旅費2千円分補助だけである。この点も少し手を入れたらよいと考える。UIターンについては、住んでよかったというミニテマがあるように、そこを前に出したらと思う。同時に豊かな自然、温かい人情、人のきずなを大切にするまち。それをUI

沖田委員

ターンの中に差し込んで。

今回、農業・漁業・林業と三つの業界から意見を伺ったが、三つで必ず言われるのが担い手確保。特にUIターンで受け入れたときの空き家整備などのハード面やソフト面の支援は、共通項なのだろう。したがって一次産業における人材確保を深掘りしていくのはどうだろうか。

川上委員長

少子高齢化と言いながらも実は一次産業の人材確保という大きなテーマだと思う。どこに行っても人がいないという話しか起こらない。そのためには人材確保する方策、予算等々について投げかける必要があるのではないか。

布施委員

それでよい。

川上委員長

これは共通する項目であり、個々で何かも少し考えてみたい。

布施委員

これも少しは共通する部分があるかもしれないが、スマート農業・スマート林業。デジタル化で操作するオペレーターも必要だろうし、研修も必要かもしれない。そのあたりに関する取組は今から人口減少になったときにも、小さな農業・小さな林業ができる仕組みづくりもしっかりやっていくべきだろう。そのためには今まで人の手がかかった部分をデジタルで賄う。そういう取組が大事ではないかという思いがあるがどうか。

川上委員長

確かに私もそのように考える。スマート農業・スマート林業。声はかけるが実際に動いてもらえる、データ編集等々についてまたは機械について、手を入れていってないのが実情だと思う。

漁業については、農業は補助金が多いが漁業は少ないという声があるので、ここが一つのネックではないかという話もあった。その点についても何か感じるところがあるか。漁業については個人がなかなか少ないので、そこに入れるかどうか難しいのだが。

布施委員

牛尾委員に聞くのだが、今のデジタルの部分で林業に関するような取組で、陸上養殖にもデジタル管理はあるのだろうか、スマート漁業みたいな取組の事例はあるのだろうか。

牛尾委員

あるとしたら以前言った農漁業。例えばビニールハウスを使って養殖するといった話は聞いたことある。邑南町ではチョウザメを飼育してキャビアをつくっている。ほかにもフグの養殖など。浜田は水温が高いという話だったが、水温が高いとフグの養殖はやりやすい。漁業は漁船漁業が柱なので、魚を獲る機能を維持することが最優先である。すなわち船の長寿命化になる。

布施委員

新船・造船も含めた上の考え方になるのか。

牛尾委員

スマート漁業というのが難しいのでは。

川上委員長

漁業にスマートというのが難しい。大型漁船などに関してはスマート漁業も言えるかもしれないが。

牛尾委員

新しい船は機械が全部デジタルで、どのレベルの機械を入れ

- るかいろいろあるようである。
- 布施委員 情報番組で見た神経締めや一本釣りの機械や技術を浜田に導入することで付加価値を上げて、単価を上げて売り出すといった提案もできるのでは。
- 牛尾委員 神経締めはもう何十年も前に当たり前にあった技術である。今はそういうのは普通である。
- 川上委員長 農業においてはJ A、漁業はJ F、機能の劣化という部分が出てきたと思う。漁業・農業ともに協同組合の機能強化をもとにして組合員への指導などをしてもらう必要があるのでは。
- 牛尾委員 J Aは組合員を育てるのではなく組織を守るためにやっているという傾向が強くて、J Aに頼らずやっている営農組織がある。身入れを増やそうと思うとJ Aではなく自家出荷したり、レストランに直接卸したり、そこまでやらないと手取りが増えないのでは。農業の全てがそうだとは思わないが。
- 川上委員長 確かにそうだと思う。どこも一緒だと思う。長い年月で機能が劣化したとしか言いようがない。
- 串崎委員 いろいろ関係者と勉強会してよくわかった。市としてできることと、きれいに整理されて、そのとおりだと思う。最終的にこれはどのような形にするのか。提言のような形でまとめるのか。どのような方向性でやるのか。
- 川上委員長 これから議論を進めながら、少なくとも9月定例会議に流したい。浜田市の一次産業と大きなことを言うだけでなく、暮らしていく人たちのための提言にしたい。
- 牛尾委員 全体の7人のまとめをして、最終的には委員長が委員会代表質問で市長に向けて提言するのが一番望ましいのでは。
- 川上委員長 確かに9月定例会議に委員会としての質問をすることはできる。浜田市議会としてせっかく委員会からの質問という形を設けていただいたので、3月にしてもよい。3月定例会議は道の駅について質問してもよいかもと考えている。委員会代表質問としてやりたい。これについては皆の協力を得なければならないのだが。3月に向けてはゆうひパークについて、委員会代表質問をさせていただく。これについては案をつくるので、それをごらんいただいて、その内容でよければ委員会代表質問にさせていただきたい。委員会の持ち時間20分。20分あれば相当なことが言える。その形でやろうか。
- (「異議なし」という声あり)
- では私の提言とはひるがえって9月定例会議で委員会代表質問という形で、それを浜田市一次産業について質問する形にさせていただく。この方向性で進めたい、よろしく願います。
- 布施委員 委員会質問の中で決まっていることがある。委員会で質問したことは個人一般質問で被らないようにというルールがあるので、解釈が難しい。ただし委員会代表質問をした人は個人一般

川上委員長

質問もできる。しかし委員会質問で聞いたことは個人一般質問に入れないようにしないと。委員会質問に農業・漁業・林業の件を入れると難しい部分ができるので、その辺を調整しながらやらないといけない。

牛尾委員

農業については串崎委員にいただいているので、9月にやるのは難しいかもしれない。

委員長が代表質問をする、そのテーマを本人がまた一般質問でやってはいけないという意味である。委員長が委員会代表質問して、違う内容を個人一般質問すればよい。ほかの議員が同じテーマで質問したからといって、それがいけないとは言われてない。

布施委員

いえ、この前次長に確認した。

川上委員長

暫時休憩する。

[13時 39分 休憩]

[13時 44分 再開]

川上委員長

先ほども話が出ている委員会代表質問については先ほどのテーマで、3月はゆうひパーク、9月は浜田市の農・林・漁業について委員会代表質問を進めていきたい。

なお、事前に私から全テーマについて大項目・中項目・小項目などつくって出すので、それを確認いただきながら、おのこの質問をやりたい。それでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

以上で全ての議題が終了した。最後に次回の委員会内容についてだが、今回は2月7日、これは視察レポートについての取りまとめ。所感をつくっていただき出してほしい。続いて2月24日3月定例会議初日の所管事務調査事項決定の委員会がある。3月8日は議案審査の委員会である。よろしいか。

(「はい」という声あり)

以上で産業建設委員会を終了する。

[13時 45分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 川上 幾雄